



AIYES 通信

横浜スペイン協会会報

発行・横浜スペイン協会 横浜市鶴見区岸谷 2-18-4 FAX 045-571-3834

2018年度定時総会のご報告

- 日 時 : 2018年5月12日(土) 14:30 ~ 16:30
場 所 : 万国橋会議センター404号室
出席人数 : 17名
議 長 : 下山利明会長
議 案 : 総会に先立ち、同日13:00より開催された理事会において「2018年度定時総会議案書」が承認された。

[議案]

1. 第1号議案 2017年度事業報告について
2. 第2号議案 (1) 2017年度会計決算報告について
(2) 監査報告
3. 第3号議案 2018年度事業計画(案)について
4. 第4号議案 2018年度会計収支予算(案)について

[議事]

1. 臼井総務担当理事の司会で開催し、まず下山会長より挨拶があった。
2. 協会規約10条(2)に則り会長が議長の座に着き、臼井理事より、第1号議案の、説明があった。引き続き、第2号議案(1)について、臼井理事より説明があった。この後同議案(2)「監査報告」は、大戸監事、下山綾子監事から、2017年度会計処理は適正に執行された旨の報告が行われた。
3. 第3号議案について下山会長より説明があり、各担当理事が補足説明を行った。第4号議案は下山会長より説明があった。各議案につき衆議を諮ったところ、出席者全員の賛同を得て可決された。その他特に提案はなく、定時総会は16時30分議長が閉会を告げて終了した。

総会ご出席の方には、議案書は既にお渡ししてありますので、送付いたしません。

ご入用の方は、下記メールアドレスにてご連絡ください。

E-mail : info@yokohama-spain.jp

又は、横浜スペイン協会ホームページ (<http://www.yokohama-spain.jp>) 会員専用ページからご参照ください。

【質疑】

議案について以下の質疑があった。

(1) 第1号議案

(質問) スペイン・サロン 吉田先生の講演会はとても良かった。今後もこのような講演会をいろいろ開催してほしい。

(回答) 今後も皆様にご満足いただけるようなサロンを開催するように努力していきます。また、会員の皆様からの御要望、講師の御提案、御紹介等をよろしくお願ひします。

(2) 第2号議案

① (質問) スペイン語教室の収益が伸びているが、理由は？

(回答) 新規1クラス、特別講座の開講、及びクラスメンバーの増加が理由です。

② (質問) 繰越金が多いが、用途は？

(回答) 5年ごとの記念行事用、及び2018年度はクラスメンバーへの還元を検討することになっています。会員、クラスメンバーからのご要望がございましたらお願ひします。

(回答) そのために、2018年度スペイン語教室の予算を増やしました。

③ (質問) 提案：決算報告に、通帳の残高証明またはコピーの添付を考えたほうが良い。

また、小口現金も一旦通帳に戻すようにすると、現金の確認が不要になりより良いのではないか。

(回答) ご提案有難うございます。今後の検討課題とします。

(3) 第4号議案

(質問) 繰越金について、記念行事用は準備引当金として計上したらどうか？

(回答) 現在の会計予算の形式では、「引当金」の項目を入れるのは難しいです。来年度の予算には、事業費として、記念行事の予算化する予定です。

(4) 全般

(質問) 議案書が当日でないと配布されないのはおかしい。出欠の判断ができない。

(回答) 今後の検討課題とします。

【第3号議案】 2018年度 事業計画

基本方針

スペイン国に深い関心を持つ者が集い、会員相互の親睦をはかりつつスペイン文化の普及と友好親善関係の向上に貢献する。

1. さくら植樹を通じてのスペインにおける文化交流の推進
2. スペイン語教室の拡充
3. スペイン・サロン、サークル活動の更なる活性化
4. 国内外の人的交流の積極的推進
5. 広報活動の充実

スペイン語教室 方針 (福長)

1. 基礎から実用的な講座まで特色のあるカリキュラムを核にクラスを一層充実させる。
2. 夏期スペイン語圏文化講座の開催
3. ホームページを活用し外部からの受講者の増加を図る。

スペイン・サロン 方針 (服部)

1. 講演会の開催 (スペイン文化関連)
2. スペインワイン・チーズ・シェリー勉強会開催
3. 料理教室開催

渉外・イベント 方針 (武菱)

1. 国際交流の充実 (大使館との積極的交流・訪日ゲスト対応・桜植樹準備)
2. 日本各地のスペイン協会との積極的な交流 (2 団体/年)
3. 新年会の開催及び大使館イベントの開催
4. 30 周年記念行事の計画立案

総務・会計 方針 (臼井・古賀)

1. 会長及び各担当理事、委員の役割を明確化 (役割分掌の作成)
2. 適切な予算の執行と管理

広報 方針 (下山)

1. AIYES 通信 4 回/年 発行
2. ホームページのコンテンツ充実 タイムリーな情報の更新
3. ホームページ上にパスワード利用の理事会 (役員) 共有情報フォルダーの設置

【2018 年度 役員・委員選任報告】

(再任)

会長	下山 利明	広報担当
理事	福長 昭代	スペイン語教室担当
理事	臼井 慎一	総務担当
理事	古賀 恵子	会計担当
理事	武菱 邦夫	渉外・イベント担当
理事	服部 君江	スペイン・サロン担当
委員	桜田 ゆみ	渉外・イベント副担当
委員	中田 博久	スペイン語教室クラス委員会担当

(新任)

理事	岩田 岳久	スペイン語教室副担当
理事	平本 紀子	スペイン・サロン副担当
理事	松村 清	スペイン語教室副担当
監事	幸島 雄一郎	
監事	原 健三郎	

(退任)

監事	大戸 正彦
監事	下山 綾子



<日本スペイン外交関係樹立 150 周年記念イベント>

2018 年 サンティアゴ巡礼 (冬の道) 260 k m完歩 (12 日間) !

今年には日本スペイン外交関係樹立 150 周年の年です。これを記念し両国の絆を更に強化深耕する為、日本の美の象徴である桜を植樹しながら現地の方々との交流を目的とした、冬の道の巡礼に参加しました。日本からの参加者は7名。在高松スペイン国名誉領事館、NPO 法人遍路とおもてなしのネットワーク、そして当協会関係者から服部理事、交流コーディネーターの間屋さん、スペイン語クラス生徒の増渕さんと私を含めた4名が参加しました。メンバーは5/26にMolinasecaに集合。4/13にGranadaを出発し巡礼路「銀の道」を約1000km歩いてきた間屋さんとは合流。翌々日5/28から巡礼を開始し12日間かけ260kmを歩き続け6/8全員無事にサンティアゴコンポステラに到着し、大聖堂でのミサに出席しました。その後巡礼事務所にて260km完歩した巡礼証明書を受領しました。巡礼中は、曇りか小雨の天候でしたが、励ましあいながら頑張ってきました。我々の巡礼は、現地の方々にとって冬の道のプロモーションという意味もあるので、カステージャ・レオン、ガリシアの両州と各市町村の沿道の皆様からの大歓迎を受け、特別プログラムが目白押しで忙しい毎日でした。連日のように地元の新聞に写真入りで大々的に紹介されました。

【特別プログラム】

1. 桜の植樹及び記念銘板の除幕式 5ヶ所
①Ponferrada ②Villavieja ③A Pobra de Brollón ④Monforte de Lemos ⑤Chantada
2. 市町村庁の表敬訪問 7ヶ所
①Ponferrada ②A Rúa ③A Pobra de Brollón ④Monforte de Lemos ⑤Rodeiro ⑥Chantada⑦Lalín
3. 市町村長、議会議員、巡礼協会会員が巡礼に同行 15ヶ所
4. 市町村長との懇親会 10ヶ所
5. 市町村長などが大聖堂までの30分の行程と巡礼者ミサに同行 (市町村7人議員1名他)
6. サンティアゴ大聖堂の大司教謁見
7. ガリシア州観光局長官及びシャコベオ理事長表敬訪問

上記の様々なプログラムを通し、当協会の目的でもある桜の植樹を行う事で現地の方々との交流を果たしました。また服部理事が折り紙を持参しての積極的な文化交流も行われ、巡礼路の完歩と合わせて大きな充実感と達成感を味わう事が出来ました。間屋さん曰く、国際交流において大切なのは、一方通行ではなく双方にとって意味があるものである事、そして長く続ける事、の2点だそうです。私も全く同感です。横浜スペイン協会の交流活動においても、これら2つのポイントを忘れずに今後何が出来るかを考えていきたいと思いました。個人的な感想としては、寝袋とわずかな衣類を担いでの巡礼の旅でシンプルライフを再認識しました。帰国して早速断捨離を始めました。今年の桜植樹に続き、オーガナイザーのプリアランサ町長のブランコさん、そして交流コーディネーターの間屋さんの絶大なるご支援のおかげで、このような素晴らしい巡礼交流が出来たことに対して、心からお礼を申し上げたいと思います。(会長・下山利明)

(右ページ写真) 上段左 ローカル紙1面 Rodeiro 町議会表敬訪問/中 ローカル紙 Ponferrada Templarios 城前に植樹/右上 巡礼証明書/右下 巡礼者手帳/2 段目左 サンティアゴ大聖堂にて大司教に謁見/右 Monforte de Lemos 市長と植樹記念銘板/3 段目左から Monforte de Lemos 公園に植樹・Villavieja 巡礼宿前に植樹・Chantada 公園植樹 /3 段目右上 Villavieja 霧の中栗林を歩く/下 100 km歩いて初めて会ったマラガからの巡礼者 (Quiroga) /下段左上 Molinaseca の巡礼宿/左下 未整地道を Chantanda へ/中 ついに大聖堂が視界に! /A Rúa 村の巡礼標 (La Flecha) /つかの間の陽射し

●スペイン語クラス

今回のスペイン語クラス紹介は昨年後期に開講したアサレアクラスです。

アサレアクラス： 毎月第1, 2, 3週 水曜日 10:30～12:00

<AZALEA クラスの紹介 - 栗山由美子講師>

AZALEA クラスは「少しずつ、着実に！」をモットーに、2017年10月にスタートしました。少しの入れ替わりはありましたが、現在生徒数10名で楽しく勉強を進めております。授業内容は、教科書は *Patio español* (朝日出版社) を用い学習していくのですが、最近では、その場に応じた私のスペイン語の質問に即座に答える、という会話練習を行っています。これには皆さん、ドキドキのご様子！でもとても楽しそう！このクラスの特徴は、皆さん勉強熱心なことです。昔スペインに住んでいらした方、スペイン語圏の文化に興味を抱いている方、退職後の今だからこそ、昔勉強できなかったものに挑戦できる、と考えられていらっしゃる方、とそれぞれが心に秘めた熱い思いをお持ちのようです。こうした思いを受け止め、スペイン語だけでなく、スペイン語圏の文化や伝統、そして生活など、私がお伝え出来ることは何でもお伝えし、充実した皆さんの未来にむけてお役に立ちたいと願っています。乞うご期待！

<AZALEA (ツツジ) クラスの紹介をしましょう。>

このクラスは、昨年10月に「初めてのスペイン語」をキャッチフレーズに、初心者を対象にして開講されました。当初、クラスには2輪の白いツツジと7輪の赤いツツジが咲き誇り、とても賑やかでしたが、半年が経るなかで、3輪がメキシコとスペインに、また2輪は消えてしまったために、とても寂しい状況となりました。ところが、この春を迎えると、何と6輪が加わり、現在は白4輪、赤6輪となり華やかさを取り戻しています。テキストは「Patio Español」と共に、先生が準備して下さるプリントを使っています。スペイン語を学ぶ目的は、みなさんマチマチですが、熱意は皆同じで、講義を受ける度にスペイン語のレベルが上がることの喜びを満喫しています。現在は、直接法現在を習得中で、間もなく命令形に進む予定です。先生に質問された後の静寂感に学生時代を思い出しつつ、スペイン語制覇を目指して日々頑張っています。(佐々木 豊)



<第12回スペイン語クラス委員会>

3月19日(月) 下山会長はじめ、クラス委員、講師の先生を含め計15名の方々のご出席をいただき第12回スペイン語クラス委員会が開催されました。冒頭、下山会長から日頃の運営に対する謝辞をいただき、その後福長理事から今年度全般にわたる活動報告がありました。また3月から新講師としてファンマ先生をお迎えすることとなり先生のご紹介とご本人からご挨拶を頂戴しました。新委員としてクラベルの松村さん、アサレアの佐々木さんが加わりました。その後各クラスの状況をクラス委員から報告いただき、どのクラスも活発に学習、活動がなされていることが確認できました。先生方からも様々なアドバイスをいただき、サプライズとして栗山先生の熱唱独演会で和やかな雰囲気終了いたしました。



(中田博久)

<夏季スペイン語クラス文化講座開講のご案内>

今期の講座はスペイン人2講師により以下の通り計4回開かれます。昨年の6回より短くなりましたが、引き続き多様なテーマを取り扱うほか、昨年取り上げた「カタルニャ独立運動」のその後についても講義いただきます。

テーマ：「フラメンコの歴史とその魅力について」「スペインワインの産地による違いと特徴」「カタルニャ独立運動：最近の動向と今後」「ホルヘ・ルイス・ボルヘス：日本を旅したアルゼンチンの作家とその時代」

場 所：神奈川県民サポートセンター 711 教室

開講日時：7月25日(水) 8月1日(水) 6日(月) 8日(水) 10:30~12:30

受講料：会員6,000円、非会員7,000円(詳細は、協会ホームページをご参照願います。)

<“新企画”お試しスペイン語講座のご案内>

今年度は、内容を絞った次の2つのお試し講座の開講を予定しています。詳細については、協会ホームページに掲載しますのでそちらをご覧ください。

第一弾：スペイン語によるディスカッション中心講座

- ・コンセプト：スペイン語の新聞・雑誌等から政治、経済、社会、文化、その他の記事を取り上げて、それに関するディスカッションを通じてスペインに関する理解を深め、スペイン語力の向上を図る。
- ・講師：Victor Pérez Villuendas (カメラアクラスの講師)
- ・開講予定日時：10月から毎月最終月曜日の10:30~12:30
- ・受講料：500円(当面3回のお試し講座について、その後についてはお試し講座終了後に決定)

第二弾：ここが聞きたい「文法」講座

- ・コンセプト：日頃スペイン語教室で学んでいても一つ理解できないこと、例えば「線過去と点過去」の使い方の違い、「定冠詞」「前置詞」の使い方や「接続法」など、テーマを絞り、集中して学びスペイン語力の向上を図る。
- ・講師：栗山由美子講師、山田るり子講師 10月からお試し講座開講(日時調整中)
- ・受講料：クラス受講者、会員は資料代として500円/1回 その他の方は1500円/1回どなたでも参加自由!

スペイン語クラス専用のお問い合わせ先 e-mail: aiyes.supeingo.kurasu@gmail.com

●スペイン・サロン

歴史とロマンを楽しむシェリー講座”に参加して

2018.04.21 於.技能文化会館(横浜.関内)

シェリー酒と云えば食前や食後に少量飲む別ワインの感覚程度でしたが、今回の講師大戸尚美さんの詳しい説明で何と奥深い歴史文化があるんだなあーと改めて感じました、非常に有意義な講座でした。スペイン南部アンダルシア地方の Jerez de la Frontera とその周辺近くのみで生産される酒精強化ワインがヘレス酒(シェリー酒)で世界三大酒精強化ワインの1つとされ、このヘレスの呼称は他では使えない商標とか・・・そして糖分が少なく、吸収がよく、二日酔いにならない等々で通常のワインとは一味違う上品に酔えるお酒、これが世界中で愛飲されている所以でしょうか。辛口から極甘口まで種類も多く、今回はその中から“香りが違う、風味が違う、コクが違う、Alcohol 度数が違う”等々の代表的なシェリー4種類(Fino・



Amontillado・Oloroso・Moscatel) を試飲できた事はラッキーでした。個人的な感触では Oloroso がおいしかったですね。日本では比較的馴染が薄いシェリー酒ですが、食前や食後だけでなくデザートと共に味わう楽しみ方など、飲み方に多様性がある事を知り改めて目からウロコという感じでした。徐々に酔いが回ってきた頃が最高潮、和気藹々のなか懇談が盛り上がりました。この様な雰囲気が出会合の楽しさそして良さでしょうか・・・お蔭様で私は途端にシェリー酒の通になった様な気分です。この様なイベントがあれば次回も参加したいと思います。(熊谷 忍)

●旅でスペインを識ろう会

スペイン 3 大祭りは楽しみにしていた講演で興味深く拝聴しました。スペインの大小合わせ年間数百のお祭りの中でこの 3 大祭りは特に人気があり、胡桃澤様ご夫婦は各々数日間体験され、現地の方々と一緒に楽しまれたご様子が直に伝わり、是非体験してみたいと思いました。7 月のパンプローナの牛追い祭りは、守護聖人であるサン・フェルミンの日を祝う祭りの一端として行われ、本来の闘牛場への追い込みから牛の前を走るお祭りに変化、今回ご夫婦は別の地域の牛追いを体験され、小規模ながら迫力満点でした。セビリアの春祭りは、綺麗な民族衣装をまとった人々が馬車や馬に乗ってパレードし、会場に数多くのカセタとよばれるテントが並び、宗教とは無関係に皆で飲んで食べて春の訪れを楽しむようで、ご夫婦もテントの外で皆さんと一緒に楽しんでいらっしやる様子が伺えました。もう一つのバレンシアのファリャの火祭りは、5 日間にわたり地区ごとに一年をかけて作った巨大な張子人形ファジャを飾り、守護聖人でイエスの義父サン・ホセの日を祝い、最終日の 19 日は優勝した人形以外の何百体もの人形が燃える様はさぞかし圧巻だろうと思いました。(原 健三郎) ※写真提供：胡桃澤様・Sevilla の Spain 広場



* * *

今回は、山田先生、馬場さん、加藤夫妻がマドリッドからバルセロナへ北回りでレンタカー等で旅したお話を聞かせて頂きました。宿泊先は、Booking.com 等で予約、レンタカーは、rentalcars.com 経由で AVIS で予約し、ベントを 1 週間利用されたようです。旅にアクシデントはつきもので、カーナビが間違ったことを教えていて目的地とはずれた方向に行ってしまう、そこで Tablet が軌道修正してくれ大活躍したようです。他、Distancias entre Ciudades という 2 都市間の距離を割り出してくれるサイトや Google Map が役に立ったようです。途中、サンティアゴ巡礼路（ブルゴス～ムルサバル間）も通過したようでした。先生は、何と 8 月 17 日には、バルセロナで発生したテロに居合わせてしまったらしく、当日は急遽現地在住のご友人のお宅に避難されたようです。そんなアクシデントにも見舞われたようでしたが、とても実り多い旅だったようです。快適な旅にする為のサイトやヒントを色々教えてください、ありがとうございました。(伊久美智子)



※写真提供：山田るり子先生・テロ数日後のバルセロナ

●サークル CLUB2020 課外活動

CLUB「2020」の5月のセッションは8日、川崎大師での課外授業となり、私も参加させていただきました。山田るり子先生以下、女性6名、男性5名の陣容です。ゴールデンウィーク直後の平日とあって、川崎大師の境内に人影はまばらで、すっかり貸し切り気分。本堂から聞こえるお経をBGMに、自由研究の発表が山田先生からの助言を交えながら続けました。お寺の由来や護摩の持つ意味、あるいはそばを走る京急電車の歴史にまで多岐にわたる力作揃いで、皆さんの守備範囲の広さをうかがわせました。聞きなれないスペイン語の響きは近くの参拝者を驚かせたことでしょうか。残念なことに、この日はさわやかな5月晴れとはいかず、この時期としては10年ぶりという寒さ。境内散策の後、幹事さんご手配のそば屋さんに場所を変え、熱燗なども交えながら身体を温め直したのは賢明でした。午後の部に予定されていた鶴見・総持寺の訪問は次回に持ち越しとなり、研究発表に気合を込めておられた皆さんの無念さはいかほどかと存じますが、次の機会を楽しみにさせていただきます（福間 宰）



CLUB2020 専用のお問い合わせ先 e-mail: aiyes.supeingo.kurasu@gmail.com

●スペイン文学余話（2）

「エル・サムライ・ドン・キホーテ」

2016年9月16日付のエル・ Pais 紙に掲載された「El samurái Don Quijote」と題する東京在住のジャーナリストによるレポートの冒頭で日本人の『ドン・キホーテ』に対する偏愛と、その全訳ラッシュとも言うべき独自の現象が揶揄されている。たしかにこの20年に限っても1999年の牛島訳、2005年の荻内訳、12年の岩根訳、17年の岡村訳、これに16年に前篇の部分が出版され全訳が待たれる野谷訳を加えると、5年をおかず新訳が出ている計算で、よその国にこんな例はないように思う。スペイン語からの初の全訳である1965年の会田訳、77年の永田・高橋訳は、いずれも評判の高いものであるが、名調子の日本語が時の流れのなかで古びてしまったことは否めない。また20世紀後半の『ドン・キホーテ』研究が1979年のアバリエ・アルセ Avallé-Arce による校閲本、98年のフランシスコ・リコ Francisco Rico による校閲本などに結実し、高度成長期以後にわが国のスペイン文学紹介やスペイン理解が格段に進んだことも相俟って、今世紀の初頭に新訳が相次いでいるのも、ある意味で時代の要請といえるだろう。記事のなかに次のような指摘がある。サンチョ・パンサの陽気なキャラクター *carácter campechano* を伝えるために（日本の）翻訳者たちが、それぞれに架空の方言 *dialecto ficticio* を工夫したのはいいが、その結果として（読者は）日本のどこかにドン・キホーテとサンチョしか知らない田舎があるらしいと思わざるを得ないのである…と。記者のエスプリには日本語と文学に対する造詣の深さが感じられる。読み書きのできない無教養な農夫サンチョの語り口は、しばしば滑稽な方言で誇張される。「そいつをわしも言うでがす」「それを言うなら、赤葡萄酒みてえに、だべ」「なんちゅうことをいうだね!」「大してむずかしくはなかんべ。」といった具合である。だが、ネイティヴに言わせると、サンチョのスペイン語は、無学ゆえの言い間違いはあるものの、訛りのない極めて普通の語り口であるという。サンチョに不要な方言で語らせることは、作品の文体を損なうばかりでなく、原作の本意ではない地方蔑視を付け加えている点でも看過できないだろう。（吉田彩子）

●シネマサロン

謎の天才画家「ヒエロニムス・ボス」(El Bosco. El Jardín de las Sueños)

監督：José Luis López-Linares 2016年スペイン、フランス etc.

この世は天国か？地獄か？エロチックでグロテスク、謎に満ちた画家ヒエロニムス・ボス（日本ではボッシュ）。ネーデルランドに1450年ころ生まれ1516年に没す。現存する作品は25点。美術史上もっとも異彩を放つ奇想ワールドはいかにして生まれたか？ある夜、プラド美術館に招かれた芸術家・評論家が彼の最高傑作「快樂の園」の前に集まる。—まるでオペラだ！どんな男だったのか？神への挑戦よ！聖職者が説く真実を語っている！誰もが謎を解こうと夢中になる！大きなサンショウウオはなぜ消えた（X線での調査ではあった）？—などと語る。

「快樂の園」は「三連祭壇画」で1515年ころの作。＜左扉＞「天国」：神がアダムにイブを贈る場面。＜中央扉＞「現世」＝「快樂の園」：猥雑な多数の裸体の人物、空想上の動物、巨大な果物など。＜右扉＞「地獄」：拷問を受ける罪人たち、死体には「音楽に潜む悪魔の音符」という、使ってはならない音程が書かれていると音楽家が言う。当時のスペイン王・フェリーペ二世がこの作品に魅了され（熱烈な愛好者）、1591年競売にかけられていたのを買い取り、エル・エスコリアル修道院に奉納。1939年に他の作品9点と共にプラド美術館に収められる。（松本益代）



●会員の活動報告

＜スペイン音楽と伝統舞台芸術サルスエラ＞ 連続講演第1回

2018.5.13 於：スペインクラブ銀座

新装開店のスペインクラブ銀座にて5月13日開催された桜田講師による第一回サルスエラランチセミナーに参加しました。今年の新年懇親パーティーで司会の桜田様がふれられたサルスエラに興味を持ち参加しました。桜田講師のユーモア交えたサルスエラ誕生のお話と、出演の方の素晴らしい歌声、ダンスに堪能した時間でした。サルスエラはオペラ的一种で、350年前にスペイン人による喜劇がマドリッド市外の別荘サルスエラにて国王夫妻の前で上演され、新しい音楽様式として登場したのが始まりと考えられ、以降約100年間流行しました。その後、主流であったイタリアオペラが流行するにつれ一時空白の期間があったが、1830年にイタリア音楽から独立しサルスエラとして復活、神話中心の演劇から歌や舞踊が加わり、一般にも広く親しまれるスペイン特有のエンターテインメントに発展しました。今後の公演が楽しみです。（原 健三郎）



*レオンの桜

昨年9月の「第5回さくら植樹と友好親善の旅」で訪問し、植えた桜が無事に咲きました。レオン県ビエルゾ郡のプリアランサ町のブランコ町長が写真を送って来てくれました。写真の桜はカルセド湖畔に植えたものです。町の人たちがお世話をしてくれて順調に成長している様です。嬉しいですね。



*ロンダの桜

この4月に、スペイン語教室のクラスメートが、スペインアンダルシア地方に旅行されました。ロンダを訪れたとき、「ロンダの桜」を思い出して、桜がどうなっているか、わざわざ植樹された公園に立ち寄って写真を撮って来てくれました。ちょうど時期も良く、桜が2本きれいに咲いていて、やっぱりちょっと嬉しかったそうです。そのエリアは整備され、他にも何本か若い苗木（花が咲いていないので桜かどうかの確信はないそうです）が、同じ場所に植えられていたとのこと。きちんとメンテナンスし続けてきてくださった方々に感謝です。ここに、彼女が撮影して下さった、花盛りの桜、「ロンダの桜」の主人公春田さんのプレート、1993年度植樹の際のプレートの

写真を紹介します。
(古賀恵子)



【訃報】

当横浜スペイン協会の会員で、スペイン歌曲の第一人者としてご活躍された柳貞子さんが3月22日ご逝去されました。1990年、当協会設立時の顧問としての立ち上げメンバーで、長年に亘り協会の運営にご尽力頂きました。心よりご冥福をお祈り致します。

(写真は2005年 協会創立15周年記念パーティーにて初代下山会長と)



***** 協会からのお知らせ *****

次回のスペイン・サロン

スペイン音楽講座 ～スペイン生粋のエンターテインメント”サルスエラ”の世界～

講師：桜田ゆみ

日時：9月22日(土) 13:30～15:30

会場：フランス菓子「メーテルリンク」 横浜駅西口7分

参加費：2000円

定員：40名

お申込み：kfk.2010@clear.ocn.ne.jp(服部)

norih0703@gmail.com(平本)

***** 新会員紹介 *****

新沼 順子 (Yoriko Niinuma) 横浜市都筑区在住 2018年4月入会

光と影の国スペインの風景にひかれ、スペイン語に接したいと思いました。読み方がローマ字読みなので勉強し易いと思ったら、とんでもない、文法の発想に四苦八苦しています。スペインの歴史・文化に楽しんで触れて行きたいと思います。

増田 順子 (Junko Masuda) 横浜市緑区在住 2018年4月入会

2年前からスペイン語の勉強をしています。教室に通わないと勉強を続ける自信がないので入会して、文法を一通りと会話ができるようになるまで続けたいと思い入会することにしました。

吉田 彩子 (Saiko Yoshida) 横須賀市在住 2018年5月入会

清泉女子大学で40年以上スペイン語とスペインの文学・文化の授業を担当してきました。ご縁があって、現在、御協会の講師を務めさせていただいております。会員の皆様の活動、スペイン語やスペインの文化に寄せられる関心の深さに感銘を受けまして、入会を希望いたします。どうぞよろしくお願い申し上げます。

川上 伊作 (Isaku Kawakami) 横浜市中区在住 2018年5月入会

スペイン語クラス(横浜駅西口教室)に参加し、入会を決意しました。教室の他の会員のみなさんはスペイン語をライフワークとされているように拝見されますので、早くそのレベルに追いつきたいと思います。

<<賛助会員各社の会員サービス内容>>

◆会員証の提示で、下記賛助会員企業より表記のサービスが受けられます。

賛助会員	住所	☎番号	会員サービス
カサ・デ・フジモリ関内本店	横浜市中区相生町1-25	045-662-9474	サンテリア1杯無料
Bar Español	横浜市中区相生町2-43-2	045-651-1074	サンテリア1杯無料
スペインバル ボデガ・デ・サラア	東京都港区台場2-2-1 ザ・タワーズ・ダイアネットワークスホール1F	03-5531-2151	生ビール一杯無料

《編集後記》 サッカーワールドカップロシア大会。決勝トーナメントまで進んでいませぬ。皆さーん、盛り上がってますかー！強豪コロンビアに勝った日本代表はグループHを楽々1位通過！準々決勝でスペインと当たるかも！？なんちゃって…この編集後記を書いているのは6月です。推定32億円で神戸にやって来る、我らがスペインのインiestaを観るもよし、もちろん日本代表を応援するもよし(グループリーグ突破してるのかな?)。寝不足の日々が続きますね。(A.S)

編集長/下山綾子 編集委員/岩田岳久 白井慎一 古賀恵子 下山利明 武菱邦夫 服部君江 平本紀子 福長昭代 松村清

*投稿寄稿宛先
横浜スペイン協会

E-mail : info@yokohama-spain.jp
ホームページ : <http://www.yokohama-spain.jp/>

次回の原稿締切は
10月10日(水)です